

# 都市再生整備計画 事後評価シート(原案)

## 藤沢駅周辺地区(第2期)

令和7年12月

神奈川県藤沢市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	藤沢市		地区名	藤沢駅周辺地区(第2期)				面積	100.9ha		
交付期間	令和3年度～令和7年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	2,130.6		国費率	0.5				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
		基幹事業	【道路】藤沢駅北口南北線回遊性向上事業、鵜沼29・31号線ほか回遊性向上事業 【地域生活基盤施設】自転車駐車場整備事業 【高質空間形成施設】駅周辺自転車走行空間整備事業											
		提案事業	【地域創造支援事業】藤沢駅南北自由通路											
	当初計画から削除した事業		事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		基幹事業	【道路】藤沢駅北口南北線回遊性向上事業				事業スケジュール変更のため、計画期間内での事業実施が困難となったため。次期計画での実施を検討。				指標4に関連性はあるが、目標及び指標への影響はない。			
			【地域生活基盤施設】自転車駐車場整備事業				事業スケジュール変更のため、計画期間内での事業実施が困難となったため。次期計画での実施を検討。				当該事業を対象としていた指標「放置自転車台数(台/年)」を削除。			
		提案事業	—				—				—			
			新たに追加した事業	基幹事業	【地域生活基盤施設】藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業				詳細設計(提案事業)が完了し、工事(基幹事業)へ着手していくため。				指標1および指標3に関連するため、数値目標の変更を行った。	
	【高質空間形成施設】藤沢5号線高質化事業				関連する工事の施行時期が確定したため。				指標4に関連性はあるが、目標及び指標への影響はない。					
	提案事業	—				—				—				
	交付期間の変更	当初	令和3年度～令和7年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—							
変更		なし												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標			従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
			単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	滞留空間の魅力度	%	12.8	R2	19	R7		87 (推計値)※	○	あり	—	藤沢駅南北自由通路整備等の一部完了による魅力ある滞留空間・交流拠点の創出や交通結節点の機能向上、快適に歩ける空間が創出されることが期待され、整備後の滞留関連施設を「魅力的」と感じている人が増加した。	—
										なし	—			
	指標2	イベント開催日数	日/年	20	R2	40	R7		81	○	あり	—	整備が完了した施設等を利用し、地域が主体となったエリアマネジメント組織等が様々なイベントを実施していることにより、イベント開催日数が目標を達成し、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出に寄与している。	—
										なし	—			
	指標3	歩行者空間の快適度	%	20.4	R2	30	R7		85 (推計値)※	○	あり	—	藤沢駅南北自由通路整備等の一部完了による魅力ある滞留空間・交流拠点の創出や交通結節点の機能向上、快適に歩ける空間の創出されることが期待され、整備後の自由通路等の歩行に際して「快適」と感じる人が増加した。	—
										なし	—			
	指標4	自転車の歩行阻害割合	%	逆走割合28.4 歩道走行割合16.8	R元	逆走割合25.6 歩道走行割合15.1	R7		逆走割合15.8 歩道走行割合11.5	○	あり	—	駅周辺道路において、自転車走行空間の整備、回遊性向上や高質化に向けた事業を実施したことにより、快適に歩ける空間が創出され、自転車の歩行阻害割合が減少した。	—
										なし	—			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標			従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
			単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1													
	その他の数値指標2													
その他の数値指標3														
4)定性的な効果発現状況	全ての事業完了後に確認・記載													

5)実施過程の評価		実施内容	実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた		—
	官民連携による 取組	【藤沢駅前街区エリアデザイン会議】 ・藤沢駅南北自由通路拡幅整備や今後の南口駅前広場の再整備等の実施にあたり、駅北口を含めたエリア全体を捉えたデザインについて検討することを目的とし設置（R4年度～R5年度） ・「藤沢駅前街区エリアデザインコンセプト」を作成（令和6年3月） ・コンセプトを踏まえ、藤沢駅南北自由通路デザインパースを作成	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
			都市再生整備計画に記載し、実施できた		デザインコンセプトは、公共施設を整備するときのデザインの指針とするとともに、民間施設の建て替えのときなどには、市民、事業者の方々が魅力的な駅前について考えるきっかけとなるよう活用していく。 デザインパースは、実際に工事を進める際の参考や完成イメージとして市民等への周知に活用している。
	持続的なまちづくり 体制の構築	【一般社団法人 藤沢駅周辺地区エリアマネジメント】 ・藤沢駅周辺地区のにぎわいの創出と再活性化を目指し活動（令和元年.12月～） ・藤沢市藤沢駅前広場の指定管理者（期間：令和3年度～令和5年度、令和6年度～令和10年度）	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	持続的にエリアマネジメントを推進できるよう、公共空間管理と合わせて指定管理者が主体的のにぎわい創出に向けた活動をするとともに、市もアドバイスなど必要な支援をしていく。
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
			都市再生整備計画に記載し、実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

※指標1および指標3の評価値(推計値)について、該当事業が完了していないため、整備後の完成イメージをもとにアンケート調査を実施し、計測している。事業完了後に再度調査を行い、確定した評価値とする。



様式2-2 地区の概要

藤沢駅周辺地区(第2期)(神奈川県藤沢市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値
大目標: 藤沢の玄関口にふさわしい、にぎわいや交流を創出し、周辺地域へつなぐ駅前づくり 目標①: 魅力ある滞留空間・交流拠点の創出 目標②: 交通結節点の機能向上及び快適に歩ける空間の創出		滞留空間の魅力度	単位: %	12.8	R2	19	R7	87(推計値) R7
		イベント開催日数	単位: 日/年	20.0	R2	40	R7	81 R7
		歩行者空間の快適度	単位: %	20.4	R2	30	R7	85(推計値) R7
		自転車の歩行阻害割合	単位: %	逆走割合28.4 歩道走行割合16.8	R元	逆走割合25.6 歩道走行割合15.1	R7	逆走割合15.8 歩道走行割合11.5 R7
<div>■ 鵠沼29・31号線ほか回遊性向上事業</div> <div><div>整備前</div><div>整備後</div></div> <div>■ 藤沢駅周辺自転車走行空間整備事業</div> <div><div>整備前</div><div>整備後</div></div> <div>■ 藤沢5号線高質化事業</div> <div><div>整備前</div><div>整備後</div></div> <div><div>当該地区</div><div><div>&lt; 凡 例 &gt;</div><div><div>基幹事業</div><div>提案事業</div><div>関連事業</div><div>令和6年度事業</div></div><div><div>事業区域</div><div>都市機能誘導区域</div><div>( = 居住誘導区域 )</div></div></div><div><div>藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業(詳細設計) (地域創造支援事業)</div><div>藤沢駅南北自由通路拡幅整備事業 (地域生活基盤施設)</div><div>駅周辺自転車走行空間整備事業 (高質空間形成施設) ※黄色枠内</div><div>藤沢5号線高質化事業 (高質空間形成施設)</div><div>藤沢391街区整備</div><div>鵠沼29・31号線ほか回遊性向上事業 (道路)</div><div>(仮称)市民会館等再整備</div><div>藤沢駅</div><div>藤沢市役所</div></div></div>								
まちの課題の変化	・藤沢駅南北自由通路の一部拡幅や市役所周辺の道路の高質化により拠点性が向上するとともに、駅周辺でのイベント開催による交流の場の創出により、駅を中心としたまちの拠点としての機能が強化されたが、自由通路や更新が必要な駅南口の施設整備を進め、まち全体としての求心力を高める必要がある。また、イベント時だけでなく、日常的な交流・活動の場づくりが必要である。 ・駅北口においては、地域が主体となったイベントの開催によるまちの活力向上が図られたが、駅北口だけでなく、南口や周辺地域の施設等も有効活用し、周辺地域全体へのにぎわい波及や活力向上が必要である。 ・藤沢駅南北自由通路の拡幅や小田急線改札口の橋上化事業、ユニバーサルデザインの導入等により駅の利便性や安全性が向上するとともに、自転車ネットワークの整備より、安全な回遊ネットワーク形成が図られているが、南口駅前広場等において、バリアフリー化による利便性や安全性の向上が必要である。							
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	・駅を中心としたまちの拠点性強化とにぎわいの創出に向け、イベントの周知や実施等により、駅周辺における持続的な交流・活動の場づくりを行うとともに、道路空間や公共施設等を活用した市民等の交流・活動機会を日常的に創出していく。 ・周辺地域全体へのにぎわい波及や活力向上に向け、周辺店舗や地域団体・企業等と連携した体制・仕組みづくりを行い、駅利用者だけでなく、市民等にとっても魅力的で利用したくなる駅及び駅周辺の環境整備を行う。 ・駅や駅周辺の利便性や回遊性、安全性の向上に向け、交通結節点として駅南北間の連携強化や良好な自転車環境の維持・向上を図るほか、駅南口に残されている老朽化した都市施設等の機能更新を行う。							